

南総市文化協会報

第25号

発行 令和5年(2023)3月9日

(題字：秋葉 アキヲ)

発行責任者 中山 治

二宮尊徳に『師』と言われた男

若林金吾

わかばやし きんご

若林金吾という名をご存じの方がどれ位いるだろうか。江戸時代後期、不二孝(のちの不二道)の導師として、二宮尊徳の側近の一人として活躍していながら、その実績を証明する史料はほとんど遺されていない。

若林金吾(号を自脩)の経歴はよく分からないが、中妻町に現存する文政元年(1818)10月に建立された「若林金吾(悟)頌徳碑」(金吾生前に村人が徳を褒めたたえる文章を刻んだ碑)によれば「陸奥の最上の人なり」とある。天明3年(1783)山形県の生まれで、若くして遊学、経済の学に心を寄せ、下総中妻村に手習師匠として定住した。村民から慕われ、引き留められて同村塚原家の名跡を継いだ。惣右衛門を

称し、その後、不二孝の祖、小谷三志に心酔、孝弟となつて欽行三悟を称した。

三志門下中でも学問では第一と目されていた金吾は、尊徳に乞われて桜町陣屋(現真岡市)に入り、私設秘書として書類作製、来訪者の応接をしていた。天保4年から8年迄の約4年間、桜町陣屋に寄寓、尊徳に近侍し著作活動を補助した。

天保8年(1837)5月、金吾は軽い脳溢血で倒れた。この時、尊徳は蘭方医を呼び、あるいは筆子どもをして神仏に祈らせ、手厚く看護を行なった。金吾は回復したのち、8月半ばに中妻村に戻り、不二孝の布教を続けた。一説では天保14年(1843)1月、二宮尊徳が幕府の命により大生郷村の実態調査のため、名主坂野久馬邸を訪れた際、

尊徳に同行し、補佐した人物であるという。



金吾には著作『若林自脩作文集』がある。尊徳曾孫の二宮四郎氏から寄託され、現在小田原報徳博物館に所蔵されているこの著書の表紙には「天保6乙未年若林自脩作文集 二宮金次郎」とある。この作文集は、神奈川県指定重要文化財「二宮尊徳関係歴史資料」のうち「二宮家伝来分」に属し、ご子孫宅に「尊徳ゆかりの書」として長く保存されていたものである。これは尊徳生前の同書に対する扱いと無縁ではない。

「報徳思想」の成立過程に作文集が果たした役割を誰よりも承知していたのは尊徳自身であり、そのうち自らの報徳思想の基本ともいふべき貴重な典拠のいく

つかを見出していたからであらう。それゆえに、この書を長く身近に置き続けたいたのである。

金吾は報徳思想成立期に、尊徳から『師』とも仰がれつつ深い思想交流の機会を持ち得た真に稀有な人物であり、その思想形成にもつとも大きな影響を遺した人物の一人であったと言える。

若林金吾、終焉の地となつた埼玉県三郷市西善院の野本家墓所内に墓碑があり、妻とともに現在も静かに眠っている。



西善院にある金吾夫妻の墓。墓碑右側には「温行六知信士」とある。金吾は埼玉移住後、行者名「温行六知」を名乗っていたようだ。(写真は住職の許可を得て、筆者が撮影したもの)

(小田部芳美)



令和4年度 常総市民文化祭					
部門	事業名	開催日	会場 (生芸学習センター)	開始時間	終了時間
舞台	市民音楽会	10月30日(日)	多目的ホール	13:00	16:00
	市民芸能祭	11月3日(木・祝)	多目的ホール	9:00	17:00
	市民カラオケ祭り	10月22日(土)	多目的ホール	9:30	19:00
	常総落語会	10月29日(土)	多目的ホール	13:30	16:00
	民謡舞踊大会	11月6日(日)	多目的ホール	9:00	17:00
文芸	市民短歌大会	10月23日(日)	研修室	10:00	14:00
展示	市民美術展	10月27日(木)～10月30日(日)	展示室 1	13:00	15:00
	市民書道展	10月31日(月)～11月3日(木・祝)	展示室 1	10:00	15:00
	市民写真展・押し花展	10月31日(月)～11月3日(木・祝)	展示室 1	10:00	15:00
	手芸作品展	10月26日(水)～11月3日(木・祝)	展示ケース	9:00	15:00
	市民陶芸展	10月27日(木)～10月30日(日)	展示室 1	12:00	15:00
	面打作品展	10月26日(水)～11月3日(木・祝)	展示ケース	9:00	16:30
	防災予防ポスター展	11月9日(水)～11月15日(火)	エントランス	9:00	17:00
自然友の会展	10月22日(土)～10月28日(金)	エントランス	9:00	17:00	
茶華道	生花展	10月29日(土)～10月30日(日)	エントランス	9:00	16:00
	点茶奉仕	11月3日(木・祝)	展示室 2	9:30	15:00
映画	市民映画会「お終活」	10月23日(日)	多目的ホール	10:00	16:00
囲碁	市民囲碁大会	11月3日(木・祝)	会議室 2	9:00	17:30
	児童生徒作品展	10月29日(土)～10月30日(日)	水海道小学校体育館	9:00	16:00
学校	水海道小学校鼓笛パレード	11月10日(木)	学校・前町・南郷前・市前・学校	13:00	14:30

※開始・終了時間は目安です。

増田一也先生逝去

平成19年度から23年度までの5年間にわたり、常総市文化協会の会長を歴任された増田一也先生が昨年7月21日にご逝去なされました。増田先生は高等学校の校長として、茨城県教育委員長としても県の教育に携わり、教育者の育成などにもご尽力なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



令和4年度

市民文化祭開催

10月15日から11月3日にかけて、令和4年度市民文化祭が3年ぶりに開催されました。ステージ発表や作品展示等、様々な分野で市民の皆さんによる文化活動が披露されました。

ひびる PEOPLE

人物 Special People

故郷のために力を尽します

長妻 三男さん



長妻さんの名前をご覧になった方のなかには、長妻さんをご存じの方も多かったと思います。「以前大変お世話になったよ」「今でも色々とお世話になっているよ。」という方もいらっしゃるでしょう。



イベント用の材料を加工している長妻さん(左)と会員の皆さん

和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐために、環境促進活動並びに支援に関する事業を行い、豊かな里地・里山の環境づくりに貢献することを目的として、林道の整備・木工細工教室・ミニ門松づくりなどを行なっています。

長妻さんは現在も水海道あすなろの里で開催される、秋まつりや各種イベント等にも積極的に参加し協力を惜しみません。稲作体験での田植え・稲刈りの指導、たけのこ掘り、木工細工体験教室でも参加される方々に自ら実践し指導されています。また、毎年年末に



篠笛を奏でている長妻さん(左奥)

開催している「そば打ち体験」では、協力団体である、むくの木会が管理栽培したそば粉を使用しています。大塚戸芸能保存会では会員の方々とともに、古来より連続と続く伝統芸能の保存と継承に寄与し、祭りを仲立ちとした地域住民のふれあいと故郷の良さを再発見する場の提供をしています。一言主神社で開催される秋季例大祭では「獅子舞」に始まり「からかさ万灯」、県指定無形文化財でもある「からくり綱火」にも参加し、獅子舞では自ら篠笛を吹き、綱火の三番叟では笛の師匠として後継者の育成にも努めています。菊花祭では菊花会による丹精込めて育てられた作品が境内一杯に飾られます。



菊花会会員一同の作品

また、長妻さんは90歳を過ぎていた数年前まで、文化協会の加盟団体である郷土史研究会の会員として、毎月1回夜に開催していた勉強会にも参加し、会員とともに郷土史の勉強をしていました。若輩の私が言うのもおこがましいのですが、非常に勉強熱心で『学び』に対して食欲に取り組んでおられました。

94歳になられた現在も、スマホを操りSNSのフェイスブックを活用し、知り合いの投稿にもコメントを送るなどしています。90歳を過ぎてフェイスブックをやっている人が全国にどれくらいいらっしゃるでしょうか。

何事に対しても意欲的な長妻さん。これからもまだまだお元気で地域のため、後輩のためにご尽力くださることをお願いし、また、いつまでも私たちの憧れの存在として、ご指導いただけるよう心願ってやみません。(小田部芳美)

ふるさとへの便り

本市出身あるいは縁のある方で、現在文化活動等でご活躍中の皆さんからのお便りをご紹介します。



元日本代表 現オムロンピンディーズ

地元とハンドボールへの感謝

岩 淵 いくみ

思いがあり、よりハンドボールを好きになっていったのを感じております。6年時の全国大会では、チームの仲間と一緒に全国大会準優勝という結果を残すことができたが、あと一歩のところまで「日本一」を逃したことで新たな目標ができたこと、水海道西中学校進学区域でしたが、鬼怒中学校に進学をしました。中学校でも当時の顧問の先生と出会い、優しい先輩方にも恵まれ全国大会にも出場しました。その結果は出ませんでした。その後、茨城県の中学生選抜に選ばれたこともあり、高校でも競技を続ける意思が強くなり、地元の伝統校・水海道二高への受験を決めました。高校入学後の練習は、今までのハンドボールとは違う練習だと日々感じていました。「全国大会に出場する」という練習内容ではなく「日本一になる」という目標を持った先輩方

の練習を目的にしたりしたからです。常総市には水海道二高でハンドボールされていた諸先輩方がたくさんいらっしやるかと思いましたが、伝統を守り継承していくという重圧も抱えての練習だったと記憶が鮮明に残っております。大学での競技経験、現在の実業団での現役生活、日の丸を背負ったの日本代表を経験できたこと…。そして、今の自分があるのも地元常総市でハンドボールと出会い、私を今でも支えてくれている家族、そしてなにより、ハンドボールを通して出会うことのできた小・中・高の恩師、仲間のお陰だと日々感じております。今後、あと何年現役選手としてハンドボールを続けられるかわかりませんが、茨城県常総市で生まれ育ち、地元の方々の方々に支えられていくことへの感謝の気持ち忘れず、現在の熊本県で最大限の努力を惜しまず頑張りたいと思います。そして将来、地元常総市に戻った際には、ハンドボ



略歴

1995年12月14日生
菅原小、鬼怒中、水海道二高、日体大 卒業
現在、熊本県実業団女子チームの「オムロンピンディーズ」に在籍
2020年、日本代表に選出され、2021年、スペイン開催の女子世界選手権に日本代表として出場
熊本県山鹿市 在住

常総市大生郷町で生まれ育ち、地元の少年団でハンドボールと出会い、鬼怒中学校・水海道第二高等学校とハンドボールを続け、日本体育大学に進学し、その後、熊本県の実業団チームのオムロンピンディーズで現在もハンドボールを続けております。2014年の3月に高校を卒業し、大学での寮生活のためその年の4月から地元を離れて、今年で9年目を迎えますが、生まれ育った常総市への思い、愛着感は今でも私の心の中から消えることはありません。地元の高級生や友人、両親が大好きだからです。そん

な地元でハンドボールと出会い、現在でもハンドボールを続けておりますが、振り返ってみても常総市の文化・スポーツにおける最高の環境の中でハンドボールができたことは大変充実していたと感じております。そんな恵まれた環境の中で、ハンドボールと出会ったのは、2005年の私が小学校4年生の時でした。父が高校時代までハンドボールをしていたこともあり、地元のスポーツ少年団水海道ハンドボールクラブに入団をしました。市内の小学校にたくさんのお友達がいて、仲間に会うことの大切さを知り、当時の厳しい練習よりも楽しい方が強かった

市内小中学校吹奏楽部紹介

石下中学校吹奏楽部

今年度の本校吹奏楽部は、3学年合わせて36名で活動していました。今年度は、コロナ禍における活動制限も少しずつ緩和され、観客を入れての行事も復活し始めました。しかし、これまでの影響は大きく、他校の生徒の演奏を生で聴いたり、一緒に講習を受けたりする機会が全くなかった生徒たちは、技術的にも気持ちの上でも課題が多くありました。そのような課題に向き合いながら、自分たちの納得のいく演奏を目指して3年生中心に練習に励んできました。健気で真面目に頑張る生徒たちの姿を見て、もっと人前で演奏する機会を設けて自信をつけさせたいと思います、様々な演奏会やコンクールに積極的に参加しました。その結果、今年度はTBSこども音楽コンクールの予選を通過し、本選に出場することができました。例年よりも一つ多く

ステージを踏み、仲間と奏でる楽しさ、本番でやり切る達成感、たくさんの拍手に包まれる充実感などを感じる事ができました。これからも、まだまだ通常の活動とはいきませんが、練習できること、仲間と一緒に演奏できること、聴いてくださる方や応援してくださる方がいることへの感謝の気持ちを忘れずに活動していきます。今後とも温かいご声援をよろしくお願ひいたします。

(吹奏楽部顧問 亀崎 美幸)



文芸

石下地方短歌会

独り居の語る人ない狭庭辺に
やさしく咲けり桜草の花

九十四歳喜怒哀楽のおりふしに
若くに逝きし妻を思ほゆ

花も葉もいっしよに揺れてわれを待つ
畑にあふるる秋桜の群れ

九十二歳恩師の作りしネギ大根
亡母を思ひて残さずきざむ

迷いつつ見上げた先に北天の
しるべ見つけて心決まらむ

オカリナの合奏をきくひとときを
曲にあわせて口ずさみおり

この平地日光筑波に見つめられ
鬼怒と小貝にめぐまれ育つ

美容室にて髪を手入れし化粧して
お洒落楽しむわれ高齢者

大根つ葉食べれば医者はいらずとふ
母在りし日を偲びつシャキシャキ

セピア色の古き写真に写る亡父
強く優しく生きた人生

庭先のマリーゴールド朝露を含みて
明るき黄の色を増す

稲刈りて藁の匂いの残る田に
白鷺一羽落穂食みおり

秋葉 文子

石山 浩三

岡田 光子

太田きみ子

清水 美憂

鈴木 園子

中川 庸

野口 光江

古澤信一郎

松崎百合子

増田 政

森田千恵子

編集後記

▲コロナ禍の為、中止となっていた文化祭事業が今年度は3年ぶりに開催となりました。久しぶりに各団体が活動の成果を発表したり、交流を深めたりと、以前の賑わいが戻ってきたように思います。しかし、皆さんの笑顔がまだマスクに覆われていることは心配の種です。

世の中の不安は、コロナに限らず、安倍元総理の襲撃事件やウクライナ戦争など、政治や戦争に強く表れた年でもありました。そのような中、ウクライナから常総市に避難してきた若い女性の歌声が市のイベント会場で美しく響きました。災害や戦争などで、一時的に抑圧されることがあっても、文化や芸術は人々の心を癒す大切なものであることを実感しました。マスクなしで笑い合い、文化や芸術を楽しむ平和な世界が早く来ることを強く望む日々です。(川上みちよ)

事務局

常総市教育委員会

生涯学習課

(常総市役所石下庁舎内)

常総市新石下

電話 4310011

電話

0297-30-8880

FAX

0297-44-7646